



財団概要

1 沿革

当財団の母体となった病態代謝研究会は昭和44年（1969年）に山之内製薬からの寄付を基金として発足し（趣意書を49ページに掲載）、疾患の成因の生化学的さらには分子細胞生物学的な研究および薬剤の生体内代謝の研究に助成金を交付し、がん、生活習慣病をはじめとする各種疾患の機序解明、治療薬の進歩に貢献してまいりました。

平成17年4月山之内製薬と藤沢薬品工業とが合併しアステラス製薬の誕生にともない、藤沢薬品工業が主たる出捐（公益法人等に金品を寄付をすること）企業であった医薬資源研究振興会の事業を病態代謝研究会が継承する形で平成19年4月にその残余財産を引き継ぎました。医薬資源研究振興会は、「敗戦によって廃墟となり、資源も何もないところから再起するには無から有を生ずるような科学および技術の振興を図る必要がある。日本発の独創的な医薬品はそれまでほとんどなかったので、人類最大の災禍の一つである疾病の予防と治療に資する医薬品の研究・生産に力を尽くしたい」との思いから、昭和21年（1946年）に設立され、昭和47年以降、薬のシードとなる新たな天然物を中心とする創薬資源の探索と応用研究に助成し、我が国の創薬探索を支援してまいりました。新生「病態代謝研究会」は、疾患の機序解明と創薬資源研究を融合的に進め、病気のメカニズムを踏まえ、分子標的に対する多様性をもった創薬資源からの画期的新薬の開発、および臨床における安全性と経済性の整合的な利用を開発する研究を助成する活動を行っています。

平成20年12月1日からの公益法人改革関連三法（新法）施行に向けて、ほぼ1年前の平成20年1月から財団事務局として公益財団法人への移行検討を開始しました。その後、移行検討会を立ち上げて議論を重ね、6月21日開催の理事会で公益財団法人への早期移行を決議、新法施行後の平成21年1月7日に厚生労働省に「最初の評議員選任に関する許可申請書」を提出、4月20日に許可を得て4月28日最初の評議員選定委員会開催、5月28日に移行申請書を内閣府公益認定等委員会に提出しました。7月16日の公益認定等委員会による第1回ヒアリング後、幾多のやり取りを経て平成22年3月23日に内閣総理大臣より認定書を拝受致しました。平成22年4月1日に公益財団法人への移行登記を行い、移行申請書通り「アステラス病態代謝研究会」と財団名称も変更いたしました。

2 目的

当財団は、生命科学研究、とりわけ創薬・治療法の開発・実用化研究を奨励し、国民の保健と医療の発展および治療薬剤の進歩に貢献することを目的としております。

3 事業

当財団は、前項の目的を遂行するために日本国内全般において次の事業を行います。

- 1) 生命科学研究の助成
- 2) 研究助成資料に関する刊行物の発行および講演会、講習会の開催並びにその助成
- 3) その他、本財団の目的を達成するために必要な事業

4 事業内容

■助成事業（応募型）

当財団の事業は、生命科学研究の発展に寄与するために実施する公益目的事業としての助成事業（応募型）1つに括することができます。その中で、本財団の目的に沿う研究への助成金等の交付事業、研究報告会開催、刊行物発行等を実施しています。その主な概要は次のとおりです。

1) 交付事業（研究助成金および海外留学補助金）

「疾病の解明と画期的治療法の開発に関する研究」であり、「独創性、先駆性が高い萌芽的研究提案」、「臨床的意義の高い成果が期待できる研究提案」を支援します。領域は特に問いません。

<助成対象研究>

- ①疾患の基礎的研究（遺伝子、タンパク質、病態、診断法、治療法、iPS細胞を用いた、あるいはエピゲノムに注目した疾患の解明など）
- ②創薬科学研究（合成化合物および合成技術、天然物、抗体医薬や核酸医薬を含むバイオ医薬、細胞治療、DDS等の先端技術の開発とその応用、ならびに創薬段階におけるヒトに対する安全性予測研究）
- ③基礎生命科学研究（細胞生物学、ゲノム科学、構造生物学、システム生物学、さらには、物理、化学、数理情報科学からの生命科学への展開（SBDD、分子動力学、ギガシーケンサー、イメージング、化学反応機構など））
- ④臨床研究（ヒトを直接の対象とした上記趣旨に合致した研究。疫学研究、コホート研究を含む）

<特色>

「個人型の研究」、「女性研究者」、「教室を立ち上げたばかりの研究者」、「留学から戻られたばかりの研究者」を支援。

<助成交付者数・交付金額>（病態代謝研究会のみの累計）

項 目	期 間	交付者数	交付金額
研究助成金（研究奨励金）	S44年（設立）～H25年度	3,100名	2,373,300,000円
海外留学補助金	S58年度～H25年度	396名	327,600,000円
総 計		3,496名	2,700,900,000円
最優秀理事長賞（副賞）	H16年度～H25年度	（23名）	23,000,000円
竹中奨励賞（副賞）	H24年度～H25年度	（2名）	1,000,000円

注1：最優秀理事長賞および竹中奨励賞は副賞ですので研究助成金とは別に集計。ただし、これらも公益目的事業の一環として実施していますので、助成総額は副賞分も含め2,724,900,000円とさせていただきます。

注2：平成19年4月に事業継承した医薬資源研究振興会（医資研）分（1,357名、1,223,900,000円）との合算累計：交付者数：4,853名、交付額：3,948,800,000円

注3：平成23年度は、東日本大震災の被害に遭われた研究者の早期復興を願う緊急研究助成金を公募により交付しました。これら（94名、21,350,000円）も合わせると助成交付累計は、交付者数：4,947名、交付額：3,970,150,000円 となります。

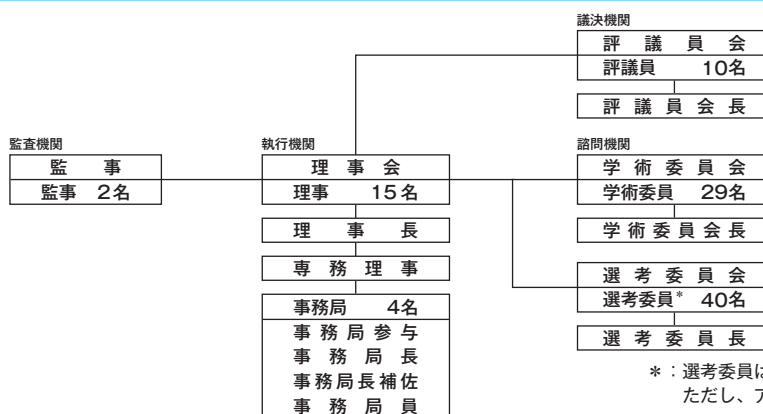
2) 研究報告会

前年度に交付した研究助成金により実施された研究の成果発表を目的に毎年10月に研究報告会を開催しています。特に優れた成果を挙げたと認められた研究に対し最優秀理事長賞を、また、今後の活躍が期待される若手研究者に竹中奨励賞を授与しています（ともに事業区分は表彰）。合わせて、当財団役員等による講演会も実施しています。

3) 刊行物

- (1) 財団報：当財団の一年間の活動をまとめて、機関誌として発行。
- (2) 助成研究報告集：研究報告会で発表された研究成果を研究年報として発行。

5 組織と人員（平成26年3月31日現在）



6 評議員・役員・学術委員・職員名簿（平成26年3月31日現在）（五十音順・敬称略）

■評議員

評議員会長
評議員

野木 森 雅郁
相川 直樹
磯部 稔
大石 佳能子
中村 正彦
佐藤 公道
杉山 雄一
田嶋 尚子
長嶋 憲一
野田 哲生

アステラス製薬株式会社
慶應義塾大学名誉教授、アステラス製薬社外取締役
国立清華大学（台湾）、名古屋大学名誉教授
株式会社メディヴァ、アステラス製薬社外取締役
中村正彦税理士事務所
京都大学名誉教授
理化学研究所 イノベーション推進センター、東京大学名誉教授
東京慈恵会医科大学名誉教授
東京21法律事務所
がん研究会 がん研究所

■理事

理事長
専務理事
理事(兼 選考委員長)
理事(兼 学術委員長)
理事

兄玉 龍彦
塚本 紳一
理協 孝
後藤 由季子
内田 渡
小川 久雄
堅田 利明
倉智 嘉久
須田 年生
中里 雅光
長澤 寛道
長野 哲雄
廣崎 晴久
藤井 信孝
泉二 登志子

東京大学 先端科学技術研究センター、アイソトープ総合センター
アステラス製薬株式会社
東京大学大学院 医学系研究科、同大学 医学部附属病院
東京大学大学院 薬学系研究科
アステラス製薬株式会社
熊本大学大学院 生命科学研究部、国立循環器病研究センター病院
東京大学大学院 薬学系研究科
大阪大学大学院 医学系研究科
慶應義塾大学 医学部
宮崎大学 医学部
東京大学名誉教授
東京大学名誉教授、同大学 創薬オープンイノベーションセンター
アステラス製薬株式会社
京都大学大学院 薬学研究科
東京女子医科大学 血液内科

■監事

大山 悦夫
樫井 正剛

税理士法人 タックス・マスター
アステラス製薬株式会社

■学術委員

学術委員会会長(兼 理事)
学術委員

後藤 由季子
一條 秀憲
稲葉 俊哉
井上 将行
今井 由美子
上杉 志成
上田 啓次
大嶋 孝志
大隅 典子
大谷 直子
小川 佳宏
尾崎 紀夫
笠井 清登
熊ノ郷 淳
佐々木 雄彦
塩見 美喜子
袖岡 幹子
高柳 広
竹居 孝二
徳山 英利
中山 俊憲
根岸 学
外森 直哉
南 雅文
三輪 聡一
柳田 素子
山下 敦子
山本 一夫
若槻 壮市

東京大学大学院 薬学系研究科
東京大学大学院 薬学系研究科
広島大学 原爆放射線医科学研究所
東京大学大学院 薬学系研究科
秋田大学大学院 医学系研究科
京都大学 化学研究所、同大学 物質・細胞統合システム拠点
大阪大学大学院 医学系研究科
九州大学大学院 薬学研究院
東北大学大学院 医学系研究科
がん研究会 がん研究所
東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科
名古屋大学大学院 医学系研究科
東京大学大学院 医学系研究科
大阪大学大学院 医学系研究科
秋田大学大学院 医学系研究科
東京大学大学院 理学系研究科
理化学研究所 基幹研究所
東京大学大学院 医学系研究科
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科
東北大学大学院 薬学研究科
千葉大学大学院 医学研究院
京都大学大学院 生命科学研究科
札幌医科大学 医学部
北海道大学大学院 薬学研究院
北海道大学大学院 医学研究科
京都大学大学院 医学研究科
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科
東京大学大学院 新領域創成科学研究科
スタンフォード大学 医学部、SLAC国立加速器研究所光科学部門（米国）

■職員

事務局参与
事務局長
事務局長補佐
事務局員

山下 道雄
石川 弘
尾崎 まり子
中西 朋恵

アステラス製薬株式会社
アステラス製薬株式会社
アステラス製薬株式会社
アステラス製薬株式会社

7 ご退任役員等（アステラス製薬関係者は除く）

評議員 神谷一夫氏（税理士）



神谷一夫氏は、当財団が平成22年4月1日の公益財団法人移行時に評議員に就任されましたが、都合により平成25年6月24日開催の定時評議員会終結の時をもってご退任されました。

ご就任期間はわずか3年3か月でしたが、その間、評議員会ご出席の折に単に発言されるだけでなく様々なご提案をいただきました。事務局が「最優秀理事長賞の副賞を個人所得として差し上げる場合、その税務処理につき受賞者にどのようにアドバイスをすべきか」についてご相談させていただいた時には、我々に適切なお助言をしてくださるとともに税務署までご同行くださるなどのご協力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げますとともに御礼申し上げます。有難うございました。

理事 長野哲雄氏（東京大学名誉教授）



長野哲雄氏は、平成16年4月から平成19年3月まで、医薬資源研究振興会の選考委員と理事をご歴任後、平成19年4月の病態代謝研究会（病態研）への事業統合時に病態研の理事に就任されました。その後、平成26年3月31日に自己都合によってご退任されるまで、合計10年間、理事、選考委員として当財団にご貢献くださいました。

その間、理事会や選考委員会等にご出席の折に、積極的にご発言されるだけでなく、時には公募事業の改善のための検討会にもご出席いただき、高いご見識や多くのご経験に基づいた、様々な貴重なご提案を頂戴いたしました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。有難うございました。

財団法人「病態代謝研究会」設立趣意書

近年医学の進歩は誠に目をみはるものがありますが、その原因の一つに医学的研究の手段として、物理的、化学的手段が大幅に導入されつつあることを挙げることが出来ましょう。

医学の研究は、人体を形態的な面から追求することにより始まり、長い年月と多くの研究によって解剖学、組織学等の形態学が発達し、やがて、機能面の追及により、生理学が発達して、今日に至りましたが、生理学から、化学的分野が分化独立して、新しく生化学が体系づけられ、近代医学の基礎が作られました。

従来、形態学的、生理学的に捉えられていた疾病像が化学的に追求されるに及んで、人体に関する知識も革新され疾患の診断並びに、治療を、生化学的な目で見直す時期に到達いたしました。

その後、生化学の著しい進歩によって、生命の根底をなしている蛋白質の生合成、核酸の役割等が、次第に明らかになり、今や人体の機能は、分子の段階で解明されつつあり、分子生物学と呼ばれる新しい生物学も台頭してきています。

このような生化学の進歩に伴って、疾病の診断および治療上、生化学的所見が極めて重要な要素としてとりあげられるに至りました。

しかしながら疾病の把握は、病理学や病態生理学に生化学的視野を加えて、始めて完全となるのにかかわらず、生化学一般の目ざましい進歩発展に比し、病態それ自体の生化学的研究はまだ必ずしも十分体系づけられたとはいえません。従って現在各種疾患に対して更に高度な病態代謝学的アプローチが強く望まれております。

このような背景のもとで、私共は、疾病に代謝の面から光をあて、病態代謝学的研究を助成し、疾病の発生機序、体質および老化の機構を生体代謝または、分子生物学的観点より追及し、併せて、その治療薬剤との関係をもあきらかにすることにより、医学、延いては、薬学の未開の分野を開拓し、国民の保健および医療の進歩と病態生化学の体系化とに些かなりとも貢献することを期して、この度、財団法人「病態代謝研究会」を設立し、寄附行為記載のごとき事業を行なおうとするものであります。

（昭和44年7月31日 財団法人 病態代謝研究会 設立許可申請書より原文のまま転記しています。）

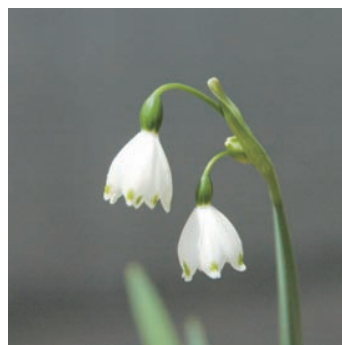
ご寄付の報告とお願い

平成25年4月から平成26年3月の1年間に、医薬資源研究、病態生理・薬理研究、画期的な治療法を早期に生み出し、すみやかに患者さんの手元に届けられるような研究の奨励の一助にと、下記の通りご寄付をいただきました。頂戴しましたご寄付は研究助成事業の推進のため有効に活用させていただきます。

アステラス製薬株式会社 様	90,000,000 円
山下 道雄 様	30,000 円
石川 弘 様	10,000 円

当財団は今後とも研究助成事業を通して、より幅広く生命科学分野の研究に貢献して参る所存ですが、そのためには更なる事業基盤の充実が必要です。こうした趣旨をより多くの皆さまにご理解いただき、当財団へのご寄付について格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

なお、当財団など公益財団法人は、教育または学術の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他公益の増進に著しく寄与するものとして認定された法人で、これら法人に対して個人または法人が寄付を行った場合は、その個人・法人ともに税法上の優遇措置が与えられます。詳しくは当財団事務局まで、電話：03-3244-3397、あるいはEメール：byoutai@jp.astellas.com などでお問い合わせください。



財団事務所移転のご案内

財団事務所が入っていた信和ビル（東京都中央区日本橋本町2-2-10）は、耐震性の観点から解体されることになっていました。

かねてより本社ビルのそばに建設中であったビル（室町古河三井ビルディング、東京都中央区日本橋室町2-3-1）が平成26年2月に竣工しましたので、3月10日に財団事務所を移転いたしました。（下の地図中央ピンク。「アステラス製薬本社別館」と記されている。）

なお、郵便物はアステラス製薬のメールセンターに一括して配達され、その後、当財団に振り分けられてくるため、郵便物用に公開している財団事務所の住所は、以前のままとしています。電話番号、FAX番号も変更ございません（裏表紙参照）。



奥のビル「コレド室町2」の上部7～17階がオフィスとなっており、7階に財団事務所があります。手前のビルがコレド室町です。



山下 尾崎 石川 中西



東京メトロ銀座線 三越前駅改札（地下1階）から「コレド室町」の地下1階経由で「コレド室町2」まで直結しています。

平成25年度の財団活動トピックス

研究助成金交付額倍増（P4参照）

平成24年3月末日に、出捐企業であるアステラス製薬から、現行公益事業増強のための資金として4億3,100万円強の寄付をいただきました。その時点で、平成24年度の研究助成金公募は交付総額6,000万円規模で実施する旨を理事会で決定し、公募案内を始めていましたので、理事会の承認を経て一部前倒しで増額（交付者84名、交付総額8,400万円）するに留めました。そして、平成25年度から研究助成金は1件当たり200万円と倍増し、総額1億400万円（交付者52名）としました。海外留学補助金と合わせると交付総額1億2,400万円です。

「アステラス財団から研究助成金を交付されると、その後の早い時期に昇格されたり栄転されたりする」という評判が囁かれています。それだけ実力者が選考されているという証だと思っています。

海外留学補助金関連（P6の交付者一覧参照）

最近の海外留学補助金交付から見てくることを雑感として書かせていただきます（正確なデータでなくイメージの表現で申し訳ありません）。

申請数は増えているのですが、

- ①申請者および交付者の特徴として薬学、工学、理学、農学系の研究者より医学系研究者や臨床医の割合が圧倒的に多くなっている（80%以上。歯学科、獣医学科系を含めると85%以上。おのずと交付者中の医学系の割合も高くなっている）。これは、他の学部・研究科の場合、帰国後の職が保証されないことに対する不安があるからではないかと考えられる。
- ②留学先のラボで提案研究の予算が確保できず留学を断念する交付者が増えている。
- ③ビザの取得が大幅に遅れ、予定日までに留学に出られない人の数が増えている。

このような状況を受け、財団として今後の海外留学補助金交付者の公募および選考のあり方につき、ワーキンググループ会議、学術委員会、理事会等で議論を重ねている。

内閣府公益認定等委員会による立入検査（P2およびP3参照）

9月11日に公益財団法人移行後初の立入検査がありました。その内容・結論は、「年間の経緯」に簡単にまとめています。

研究報告会会場変更（P8に関連記事）

近年ずっと会場として使ってきた施設が使えず頭を抱えましたが、西鉄旅行さんにUDX秋葉原を紹介していただきました。UDXさんおよびPCやプロジェクター、マイク等の設置・映写等で毎年お世話になっている（株）光和さんのご協力をいただき、報告会を無事開催し、成功裏に終えることができました。

財団事務所移転（P51に関連記事）

3月10日に新事務所に移転

役員人事（P2およびP3参照）

- ① 6月24日 評議員会長： 石井康雄氏（辞任）、野木森雅郁氏（就任）
- ② 6月24日 評議員： 神谷一夫氏（辞任）、中村正彦氏（就任）
- ③ 3月31日 理事： 長野哲雄氏（辞任）、後任は次年度の改選時に選出とした。

編集後記（ご協力いただいた皆様に感謝して）

平成26年3月31日に終了した平成25年度の当財団の活動をまとめた「財団報No.7」の編集作業をようやく終え、計画通り9月15日に発行する運びとなりました。

例年、2月初旬の理事会が終わったところで、当該年度の研究助成金交付者から所属機関・専門領域・地域・年齢、男女比などのダイバーシティを考慮して選んだ20名程の先生方に、また海外留学補助金交付者全員に、次年度の活動および助成事業公募がスタートする4月1日に合わせて「交付者からのメッセージ」として当財団HP上で公開できるようにご寄稿を依頼しています。通常はHP更新の目途が立った3月中旬に、9月中旬発行予定の財団報の編集作業を始めるにあたり、できるだけ財団HPへのメッセージ寄稿者との重複を避けて研究助成金交付者にご寄稿を依頼しています（そうは言いながらも、前年度のHPと財団報に続き、最優秀理事長賞受賞者として3回目のご寄稿となった先生方も複数いらっしゃいます。それらの先生方にも、快く引き受けてくださり感謝しています）。しかし、今回の財団報No.7の編集では、3月の財団事務所の移転（3月17日）、平成26年度の役員改選の準備（役員候補者のご推薦やご退任・ご就任のご意向伺い）などと重なり、5月末になってからのご寄稿依頼となりました。

寄稿依頼から締め切りまでが例年より1か月以上短かったのですが、各賞受賞者および海外留学補助金交付者全員と、依頼した研究助成金交付者のうち90%以上の先生方がご快諾くださり、期日までにお心のこもった原稿と素適な写真をお送りくださいました。海外留学補助金交付者の中には、ビザ発給の関係でその時点でまだご出発できない方もいらっしゃいましたが、寄稿をご快諾くださり、海外での研究への思いや留学後の様子を綴って現地で撮られた写真とともにお送りくださいました。このような多くの方々のご協力により、いつも通りの、いやそれ以上の財団報が完成し、予定期日に遅れることなく発行することができました。ご寄稿いただいた先生方に感謝いたします。

この財団報発行は、公益財団法人移行に向けて、より積極的な情報公開を行うべきと、財団HPのリニューアルとともに実施を決定し、毎年続けてきました。財団HPは、平成18年度の財団活動から、交付者からのメッセージは平成21年度交付者からスタートしました。そして財団報は、病態代謝研究会（山之内系財団）が医薬資源研究振興会（藤沢系財団）の事業を継承した平成19年度の活動報告をまとめたものを「財団報No.1」として発行するところから始めました。以下は、財団報No.1の編集後記からの転載です。『病態研の情報開示は、今までホームページが中心でした。（中略）その際、医資研の遺伝子を受け継いだ証として、冊子の名前「財団報」と冊子のデザインはあえて医資研当時のままとしました。しかしこれは単なる郷愁ではなく、長い歴史の重みを受けとめ更により良いものにして行こうという強い決意も込めています』。

財団報は今回で第7号となります。財団報に関しては創刊当初から、各号のイメージをまとめ上げる最初の編集の多くの部分を私一人で行ってまいりました。そのイメージ編集を基にベスト・プリンティングさんのご担当が素適なデザインや色遣いでより美しい冊子に仕上げてくださいました。この場をお借りし感謝申し上げます。

最後に、個人的なことですが、入社以来、醗酵研究者としてほぼ30年、その後、合併と同時にCSR・社会貢献の仕事に携わるようになり、間接的あるいは直接に財団活動に関わってほぼ10年が過ぎようとしています。この10月末日で退職しますので、本号が私の編集する最後の財団報となります。

その間に、理事長の児玉先生をはじめ、財団の役員等として生命科学の研究者、臨床医、税理士、弁護士、議員、女性経営者など多くの方が財団運営に関わってくださいました。その先生方のそばで、「日本の生命科学や若手研究者を元気づけ、発展させるために当財団がなすべきこと、できることは何か」についての熱い討議を何う機会を得、時にその議論に参加させていただいたことは私の宝物です。また、直接に財団に関わるようになった時期に、公益財団法人移行がスタートしましたので1から勉強しました。そこで、公益法人協会や助成財団センターの方々に色々とおアドバイスをいただき、製薬系の生命科学助成財団の関係者とも活発な意見交換をさせていただきました。ここで得た知識、経験と人脈も、私の宝物になりました。

この間、最も心に残っていることは、事務局長として移行検討開始から関わり、2年間で公益財団移行認定を取得したこともそうですが、東日本大震災発生後間もない頃に財団役員や過去の助成金交付者の先生方から所属される研究機関の惨状をお聞きして、「当財団にできることは何かないだろうか」と事務局内で投げかけた私の一言が、緊急研究助成支援実施のきっかけとなり早期に実現できたことも同じぐらい大きな思い出です。

あとは、バトンを渡した事務局各位が、さらに素晴らしい財団活動の原動力になって欲しいと思っています。

事務局参与 山下道雄

財団報 No. 7

非売品

発行	2014年9月15日
編集・写真	山下 道雄
発行者	児玉 龍彦
発行所	公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-5-1 TEL: 03-3244-3397 FAX: 03-5201-8512 E-mail: byoutai@jp.astellas.com http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html
印刷所	株式会社 ベスト・プリンティング

不許複製 禁無断転載